

震災からの復興活動に取り組むリーダーを、
短期・中期・長期の3つのフェーズで支援します

震災復興リーダー支援プロジェクト

Support our Disaster Recovery Leaders - Relieve, rebuild and re-start Japan

経過報告レポート (2015.3.12-2015.6.11)



Contents

- P.1-5 東北オープンアカデミー
- P.6-7 今季のトピックス
- P.8 プロジェクトの進捗
- P.8 ご支援ご寄付のお願い

1 東北オープンアカデミー

NPO法人ETICが震災直後から取り組んできた「右腕プログラム」。震災から4年が過ぎ、東北のリーダーたちと話をしていく中でアイデアが沸き起こり、動き始めた「東北オープンアカデミー」。

2015年2月から動き始めたこのプロジェクト、東北各地で活躍するリーダーのもとを訪れる2泊3日のフィールドワークで現場に触れ、東北から日本の未来を探ろうという社会実験を2020年まで展開していきます。今回はそのフィールドワークの様態と、熱い思いをお伝えします。

●東北に学び、地方創生の担い手を育てる

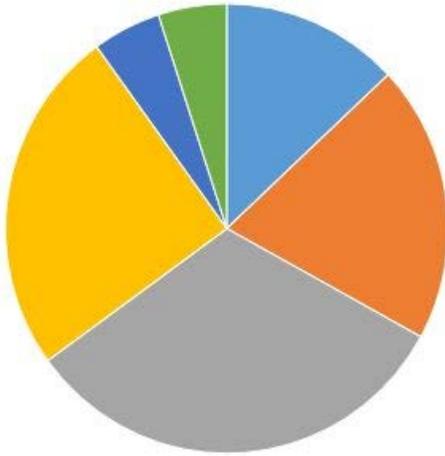
NPO法人ETICはこれまで東北の復興に向けた事業・プロジェクトに取り組むリーダーのもとに、その「右腕」となる有能かつ意欲ある人材をマッチングする「右腕プログラム」を推進してきました。

これまで東北のリーダーたちと話をしていく中で「震災復興という名目で東北に支援の目が向けられてきた。でもきっとこの状況はこれからも続いていく訳ではない」と思っていて、今受けている支援に甘えてはいられない」という問題意識や、「今は地域課題を解決する挑戦をしている。この挑戦は今後の地域の課題解決のヒントになるような日本で初めての取り組みになるのではないかと考えていて、その覚悟を持って取り組んでいる」といった熱い思いを耳にしてきました。

そんな思いを受け、2015年2月に17名の東北のリーダーたちとともに【東北オープンアカデミー】という新しいプロジェクトを始動しました。東北各地で活躍するリーダーのもとを訪れる2泊3日のフィールドワークで、まずはメンバーとなった方に東北の現場に触れてもらいます。そこには東北のみならず、日本中の地域再生に取り組む実践者たちも旅の案内人として集まり、東北から日本の未来を探ろうという社会実験プロジェクトを2020年まで展開していきます。

今期のフィールドワークは2月～5月までの週末（金・土・日）に開催。一次産業（農業・漁業）・伝統工芸・福祉・まちづくり・グローバル・人材育成など多岐に渡るテーマで、岩手・宮城・福島3県14地域で20のフィールドワークを開催し、134名（うち大学生20名）の方にご参加頂きました。

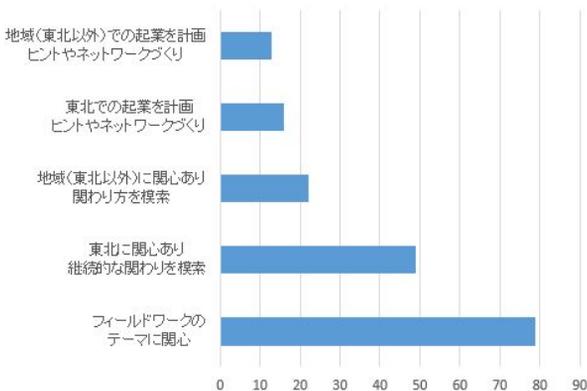
【参加者年代】



■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代以上

参加者の中心は20代～40代で、ビジネスパーソン（自営業含む）が49%、学生27%、NPO職員が14%。参加動機（複数回答）としては「フィールドワークのテーマに関心がある」が81%と最も高い結果となりました。また「東北に関心があり継続的な関わり方を模索」が49%に加え、「地域（東北以外）に関心があり、関わり方を模索」も22%と、地域との関わり方を検討している方が数多くご参加下さっていたことが分かりました。

【参加動機】



● 未来を創る現場に行く

岩手県陸前高田市で行われた「日本初。熱エネルギー100%地域内自給に挑戦」というテーマのフィールドワークでは右腕参画先である長谷川建設の長谷川順一氏と元右腕である溝淵康三郎氏がオーガナイザー（案内役）を担当し、9名の参加者と共に、林業家が伐採する現場や製材所、木の魅力をふんだんに取り入れて建てられた住田町役場、木質バイオマスガス化発電に取り組んでいる気仙沼地域エネルギー開発など、森林資源を利用した現場を巡りました。



熱心にメモを取ったり、現場の方に積極的に質問をする参加者の姿が印象的でした。



□ 第1期フィールドワーク一覧

No	日程	テーマ	オーガナイザー	ナビゲーター
1	2/27-3/1	地域や業種を越えろ！ フィッシャーマン、漁師たちの革命。	阿部勝太/長谷川琢也 一般社団法人フィッシャーマンジャパン	宮治勇輔
2	3/6-8	日本初。熱エネルギー100%地域内自給に挑戦。	長谷川順一/溝淵康三郎 長谷川建設	井筒耕平
3	3/13-15	取り戻したい、日本人の美しい暮らし。	鈴木康人/鈴木智子 omoto	渡辺敦子
4	3/13-15	世界中が注目する、グローバルな限界集落	立花貴/油井元太郎 公益社団法人sweet treat 311	三代祐子
5	3/27-29	世界中が注目する、グローバルな限界集落	立花貴/油井元太郎 公益社団法人sweet treat 311	井上英之
6	4/3-5	気仙沼の仕事論。	小野寺靖忠 株式会社オノデラコーポレーション	茂木崇史
7	4/3-5	高校生が社会課題を解決。 子どもが地元に戻ってくる教育のかたち。	山崎美登里/伴場賢一 /Bridge for Fukushima	毛受芳高
8	4/10-12	「農業×福祉」 課題を同時に解決する地域再生モデル	渡部哲也 株式会社アップルファーム	清水健
9	4/10-12	官と民がつくる新しいまちのかたち『オガール』	鎌田千市 特定非営利活動法人点空社	宮崎道名
10	4/17-19	東北の松下村塾から日本を変える。 人口減少率日本一の町の挑戦。	桑原光平 NPO法人 アスヘノキボウ	梶屋拓朗
11	4/24-26	漁師がはじめた漁師学校。 海と山と生きる半島の暮らしから学ぶ。	桃浦浜づくり実行委員会 筑波大学貝島桃代研究室 一般社団法人APバンク	貝島桃代
12	4/24-26	過疎地の未来を変える。世界ブランド戦略。	下芋坪之典 ひろの屋	森山奈美
13	4/24-26	作る人・使う人がもう一度繋がる伝統工芸の未来。	貝沼航 株式会社明天	眞鍋邦大
14	5/15-17	ビジネスパーソンのためのローカルキャリア入門。	石井重成・伊藤 聡 釜石市役所・三陸ひとつなぎ学校	嶋田賢和
15	5/15-17	日本のグローバル産業、水産業（漁業と水産加工）の今と 未来のあり方を考える！本気の水産業体験プログラム	小松洋介 / 岡明彦 NPO法人アスヘノキボウ/株式会社岡清	-
16	5/22-24	日本を代表するメーカーを地方から生みだす。	及川武宏 Three Peaks Winery / 東日本大震災復興支援財団	高橋博之
17	5/22-24	20年後の日本。「憧れの連鎖」で地域から起業家を育てる 方法	半谷栄寿 福島復興ソーラー アグリ体験交流の会	南部洋志
18	5/29-31	地方で働く女子の幸福論	久保田歌織 NPO法人アスヘノキボウ	鈴木敦子
19	5/29-31	超高齢化団地の未来。新健康長寿産業の作り方。	高荒弘志 / 伴場賢一 NPO法人ほうらい	船木成記
20	5/29-31	「地域おこし」を志すなら、復興の担い手から学べ	佐野哲史 一般社団法人復興応援団	山内幸治
21	5/29-31	食と農で実現する世界基準の地方創生	岩佐大輝 / 島田昌幸 / 渡辺一馬 GRA / ファミリア / ワカツク	-

● 故郷（くに）づくりをはじめよう

6月21日にはフィールドワーク参加者が一堂に会し、各地で学んだことをシェアして日本の未来を共に考えるカンファレンス「故郷（くに）づくりをはじめよう」を開催しました。これはまとめであると同時に、次のアクションに向けたスタートアップでもあります。

カンファレンスは3部構成で行われました。



冒頭に東北オープンアカデミーや参加者への期待を語って下さった小泉進次郎氏



パネルディスカッションは「故郷(くに)づくりへの挑戦」と題して、高橋博之氏（NPO法人東北開墾 代表理事）・高橋大就氏（一般社団法人東の食の会 事務局代表）・藤沢 烈氏（一般社団法人RCF復興支援チーム）の3名に登壇頂き、東北オープンアカデミーでも掲げている「故郷(くに)づくり」についての意見を伺いました。

また、宮城県女川町町長の須田善明氏も駆けつけて下さり、東北の現状や今後地域と関わっていく可能性についてもお話を頂きました。

第2部ではフィールドワーク参加者を中心に、分科会形式で進みました。フィールドワーク参加者がそれぞれ現場でどのような気付きを得て来たのかをシェアし、今後自身はどういったアクションを行っていくのかのアイデアをメンバー同士で磨き合いました。参加者からは「東京から訪問した地域を応援するサポーター団体を立ち上げる」「今回自身がたくさんの気付きを得た現場でツアーを開催する」「現場の魅力を伝える飲食イベントを開催する」など多数のアクションプランが挙がり、メンバー同士のディスカッションが盛り上がっていました。



第3部の懇親会ではフィールドワーク参加者同士がそれぞれの現場でどういった気付きを得て来たのかなど、ざっくばらんに話し合う時間となりました。また、参加者の皆さんが代わる代わるマイクを持ち、自身の考えているアクションについてプレゼンテーションを行い、大盛況のうちにカンファレンスの幕は下りました。

● 東北オープンアカデミーのこれから

今後はフィールドワークに参加した東北オープンアカデミーメンバーが優先的に参加出来るイベントやセミナーの定期開催など、地域との関わり方を考える機会や実践するための仲間探しを行う「ラボラトリー」が行われます。



7月21日(火)に第1回「OPEN lab (オープンラボ)」が開催され、株式会社口フトワーク代表取締役 林 千晶さんをゲストにお迎えして、「ブラックスワン～脱常識が生みだす可能性～」というテーマでお話を伺いました。普通の講演で話さないというエピソードも飛び出し、参加者は熱心に聞き入っていました。また、メンバー2名から自身が考えているアクションプランをプレゼンテーションし、参加者全員でアクションプランについてのディスカッションを行いました。メンバーが参加する「OPEN lab (オープンラボ)」は今後も定期的に開催を予定しています。



さらに東北オープンアカデミーではフィールドワーク参加料の収益で新たに「ファンド」がつけられました。このファンドの資金は東北で新たな活動を始める人材への奨学金、東北に限らず地域で起業を志す人材への起業支援金として今後運用していきます。

● 東北から日本の未来へ

震災から4年という月日が経過しました。今では東北は「日本の課題先進地域」だと言われていますが、現場では社会づくりの実践が始まっています。

東北オープンアカデミーは今後2020年まで取り組みが続いていくので、多くの方にまずは2泊3日で東北に足を運んでいただきたいと思います。東北オープンアカデミーの参加をきっかけに、自分の故郷のために活動を開始したり、東京にしながら地域の未来を創ることに関わるといったこともあるかもしれません。

既にフィールドワーク参加者の中からは東京から現場を応援する活動をしようとプランを検討されている方や、会社を退職し現場に入っていくことを決めた方がいらっしやったりと、現場での気付きからそれぞれのアクションが生まれて来ています。

もし東北の未来に関心を持ち、「右腕」として現場に飛び込んでいくことに新たに手を挙げてくれる人がいたならば、右腕プログラムとして応援していきたいと思っています。



記事：諸希恵(ETIC.震災事業部)

東北オープンアカデミー HP

<http://open-academy.jp/>

フィールドワーク紹介

<http://open-academy.jp/fieldwork/>

2 今季のトピックス（2015.3.12-2015.6.11）

■ 右腕合宿（4月11日～12日）



2015年4月11・12日の2日間で参画中右腕を対象とした「右腕合宿」を開催しました。今回は宮城県女川町に新たにOPENしたフューチャーセンターCamassを会場に、右腕16名、OB 7名が参加しました。右腕同士、どこでどのような活動をしているのか？どのようなことにモヤモヤを感じながら活動しているのか？などを話すことで互いを深く知り、学び合えるネットワーキングを構築することを狙いに、前回同様に参加者同士の会話を中心としたプログラムで構成をしました。懇親会からは近隣で活動中の右腕OBや右腕参画先のリーダーが参加し、一層賑やかなひと時になりました。「様々な分野の右腕の活動が知れた。またそこで活動している右腕と横の連携ができる場だった。」という参加者からの感想が挙がり、今後に繋がる関係性が築けたようです。

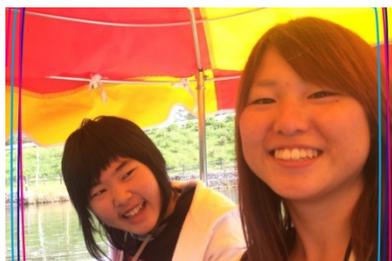
次回の右腕合宿は2015年8月29・30日、福島県内での開催を予定しています。

■ ハブ合宿（6月2日～3日）

6月2～3日の日程で、ハブ強化事業に採択されている団体の合同合宿を実施しました。今回で第3回となる合同合宿は、今年度から新たに採択された4団体を含め計7団体で釜石チームがホストとなり釜石市の旅館「宝来館」で開催。約30名の参加者による合宿では、冒頭に釜石の復興のキーマンによるトークセッションから始まり、続いて、各団体ごとの1年後のゴールや自立に向けた事業戦略を、外部のメンターを交えて磨きました。夕食後は「ハブとして我々はどこまで目指すのか」といった全体ビジョンについても全員で議論を深めました。外部メンターの面白法人カヤックの西田氏・中越防災安全推進機構の稲垣氏・株式会社御碓川の森山氏の派遣により、それぞれの活動実績をベースとした親身かつ的確なコメントが、各団体の事業戦略や全体の議論を格段に深化させました。また、2日目には今般、世界遺産に登録され、観光客誘致が見込める橋野高炉跡も視察しました。次回の合宿は12月上旬に福島県で開催予定です。



■「ジョンソン・エンド・ジョンソン×ETIC.右腕プログラム」公募



ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社の支援を受け、「被災地の方々の「健康」に寄与する事業の創出・拡大」をテーマに、東北の仕事づくりを牽引する6事業を選出。右腕人材を募集開始しました。右腕が1年間参画するとともに、メンターによる事業計画ブラッシュアップ等をおし、事業の推進をサポートします。

【第2期採択団体】

①(株)アイローカル

南三陸石けん工房プロジェクト(南三陸町)

②(株)アップルファーム

障害者の戦力化モデル事業プロジェクト(仙台市)

③社会福祉法人むそう

「寄り添い、笑顔溢れる地域創りプロジェクト」

(名取市)

④日和キッチン

石巻暮らし/食・住・衣 『日和スタイル』

立上げプロジェクト(石巻市)

⑤NPO法人福島県有機農業ネットワーク

都市と農村を結び付ける「ふくしま有機ブランド」

開発プロジェクト(二本松市)

⑥豊間協働加工販売会

復興まちづくり会社による健康なコミュニティ

再生プロジェクト(いわき市)

3 プロジェクトの進捗

2015年7月11日の時点で、118のプロジェクトに214名の右腕人材が参画してまいりました。参画期間（1年間）が終了した右腕人材（社会人に限定）の約60%が継続して被災地に残り、そのうち15名は自ら起業するなど、彼らは被災地での重要な役割を担いつつあります。現役（参画期間中）の右腕とあわせると、現在120名の人材が、東北の担い手として活動を行っています。

2013年に新たに設定した、「5年で300名」の参画に向け、今後も精度の高いマッチングと各種サポートを行ってまいります。



4 ご支援・ご寄付のお願い

本プロジェクトについては、スタート以来、国内外の個人・団体・企業の皆様より大きな関心を頂戴し、現在のご寄付・助成金等の総額は、入金見込額も含めて、757,694,601円という多額のご支援をいただいております。この場をお借りしまして、改めて心より感謝申し上げます。本プロジェクトは、当初、2013年度末までの3年間を目安に取り組んでおりました。しかし、東北の復興が本格化していく中で、中核事業である右腕プログラムへのニーズは、更に高まってきており、2015年度末までの中長期計画を策定しました。

右腕参画は初期に設定した目標から、「5年で300名」へと上方修正しております。目標の変更に伴い、残り4千万円ほどの資金調達に向けて、改めて資金調達戦略の強化を実施してまいります。皆様におかれましては、「震災復興リーダー支援基金」のPRへのお力添えははじめとして、事業連携や各プロジェクトへの個別のご協力など賜りますよう、引き続きよろしくお願い申し上げます。

>>寄付ページURL http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/donations_support/please_donate

《ご寄付の受付》

■ 信賴資本財団「震災復興リーダー基金」

<http://www.shinrai.or.jp/fukkou-shien/etic2/>

※公益財団法人である信賴資本財団は、特定公益増進法人に該当するため、寄付者の税は確定申告をすることによって寄付金控除の優遇措置を受けることができます。

■ Global Giving

<http://www.globalgiving.org/projects/sponsor-fellows-for-tohoku-and-japans-recovery/>

※米国在住の方は、GlobalGivingから寄付していただくと、税控除を受けることができます。

■ American Express（メンバーシップ・リワード）

http://catalogue.membershiprewards.jp/viewAwardDetail.mtw?productId=4487681&categoryName=jp_21a_charity_tohoku

※アメリカン・エキスプレスのカード会員さまは、ポイントによる寄附ができます。

連絡先・お問い合わせ先

◆NPO法人ETIC.内 震災復興リーダー支援プロジェクト 事務局（担当：山内・押切）

東京都渋谷区神南1-5-7 APPLE OHMIビル4階

mail : fukkou@etic.or.jp Web : <http://www.etic.or.jp/recoveryleaders/index.html>